

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 1 区分
【発行日】令和 5 年 3 月 7 日(2023.3.7)

【公開番号】特開 2022-123516(P2022-123516A)
【公開日】令和 4 年 8 月 24 日(2022.8.24)
【年通号数】公開公報(特許)2022-155
【出願番号】特願 2021-20874(P2021-20874)
【国際特許分類】

C 0 3 C 17/34(2006.01)

10

C 0 3 B 18/02(2006.01)

H 0 1 L 31/0392(2006.01)

【F I】

C 0 3 C 17/34 Z

C 0 3 B 18/02

H 0 1 L 31/04 2 8 4

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 2 月 22 日(2023.2.22)

【手続補正 1】

20

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラス板上に、アンダーコート層と第一の機能性透明膜層と第二の機能性透明膜層とがこの順に配置され、

前記第一の機能性透明膜層はフッ素ドーパ酸化スズからなり、前記第二の機能性透明膜層は酸化スズからなり、

30

前記第一の機能性透明膜層と前記第二の機能性透明膜層の膜厚の合計が 550 ~ 1000 nm である、太陽電池用ガラス基板。

【請求項 2】

前記アンダーコート層が、炭化酸化ケイ素、酸化チタン及び酸化ケイ素からなる群から選択される少なくとも 1 つを含有する、請求項 1 に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 3】

前記太陽電池用ガラス基板の色差変動 E が 8.0 以下である、請求項 1 又は 2 に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 4】

前記太陽電池用ガラス基板の色差変動 E が 6.2 以下である、請求項 1 又は 2 に記載の太陽電池用ガラス基板。

40

【請求項 5】

前記太陽電池用ガラス基板の色差変動 E が 4.4 以下である、請求項 1 又は 2 に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 6】

前記太陽電池用ガラス基板の色差変動 E が 3.3 以下である、請求項 1 又は 2 に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 7】

前記太陽電池用ガラス基板の色差変動 E が 2.1 以下である、請求項 1 又は 2 に記載の太陽電池用ガラス基板。

50

【請求項 8】

H a z e 値が 6 . 0 % 以下である、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 9】

前記第一の機能性透明膜層の膜厚が 5 0 0 ~ 9 0 0 n m であり、前記第二の機能性透明膜層の膜厚が 6 ~ 1 5 0 n m である、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 1 0】

前記第一の機能性透明膜層と前記第二の機能性透明膜層の膜厚の合計が 6 0 0 ~ 1 0 0 0 n m である、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の太陽電池用ガラス基板。

10

【請求項 1 1】

フロートガラス製造プロセスにおいて製膜された、請求項 1 ~ 1 0 のいずれか 1 項に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 1 2】

前記第一の機能性透明膜層と前記第二の機能性透明膜層が互いに接している、請求項 1 ~ 1 1 のいずれか 1 項に記載の太陽電池用ガラス基板。

【請求項 1 3】

請求項 1 ~ 1 2 のいずれか 1 項に記載の太陽電池用ガラス基板を備える、太陽電池。

【請求項 1 4】

カドミウムテルル太陽電池である、請求項 1 3 に記載の太陽電池。

20

30

40

50